

# 丁西林「一只馬蜂」の改編と翻訳

## —大学における中国語独幕劇上演のために—

夏 嵐・磯部 祐子・森賀 一恵

### 1 はじめに

中国語は漢字で書かれているがゆえに、我々日本人は往々にして文字から学ぼうとし、初級レベルの発音の学習を終了すると、教える側も学ぶ側も、学習の重点を文の理解に置きがちである。そのため、学習者は、講読などの授業を通して、読解力にある程度の向上を見せても、滑らかな会話表現や助詞などの微妙な言い回しを音声で感覚的に理解することはかなり難しい。また、その問題以前に、大学において、1年次に修得した中国語の発音の基礎を具体的ダイアローグの場面で訓練する機会は極めて少ない。

本東アジア言語文化コースでは、このような現状に鑑み、2007年度から、自然な中国語表現を理解し、演劇を通じて自らが発信する「中国言語文化演習」の授業を設けた。この演習はそのタイトルが示すように、中国演劇の学習によって、中国の言語・文化を実践的に学習することを意図している。

しかし、90分15回の授業の中で、作品を読解し演劇として表現するにはいくつかの点を顧慮しなければならなかった。それはテキストの選択において、大学の教室でそれも授業時間内に演じ切ること、そして、全ての受講生に演じる機会を与え得るものであること、の2点である。

上記を解決するためには、一幕もの（独幕劇）が好ましいが、短時間で終了する独幕劇<sup>1</sup>はプロの劇団は演じることを好まないらしくその作品は極めて少ない。加えて、十数人から二十人程が登場する劇はほとんどない、などの問題に直面した。

そこで、話劇を専攻する夏嵐が中心となり、自然な形で登場人物の交代を行う改編を試みた。原作の台詞はほとんど変えず、簡単なプロットの添加によってそれは可能となった（添加されたプロットは訳文参照）。そのプロットとは、演者が舞台から一旦退場しすぐにまた登場する動きを伴うものであり、その出入りを利用し一人の配役を数人で交代できるよう工夫したものである。また、それらプロットは、受講者一人ひとりの担当がある程度均等になる箇所挿入するよう心がけた。これにより、受講者に割り当てられた台詞は、各人の努力で演じられるも

---

1 但し、1920年代に限っていえば、話劇が始まったばかりで劇本創作は未熟な段階にある、また上演方法も模索中であるなどの理由により、一幕ものは比較的多いと言える。

のとなった。

2007年度は、テキストに曹禺<sup>2</sup>の翻案物「婿取り大作戦（原題「鍍金）」<sup>3</sup>を選び、2008年度は、丁西林作「スズメバチ——嘘つきカップル万歳——（原題「一只馬蜂）」を採用した。いずれも若い男女の結婚を題材とするもので、前者は、よい婿を取るために娘を実際よりよく見せようとする親心をユーモラスに描いたものであり、後者は、親の思惑とは別に思いを寄せ合う男女の心をユーモア込めて描出したものである。

受講者は、中国語の正しい理解、豊かな表現を学習しながら、それを自らが表現するためにはどのようにすればよいのか、生きた中国語表現に挑んだ。

授業は（15時間）、中国演劇についての概説（1時間）、テキスト講読（7時間）、パート練習（3時間）、全体練習（3時間）、発表（1時間）に配分された。

2008年度に上演した丁西林作「一匹のスズメバチ——嘘つきカップル万歳——（原題「一只馬蜂）」については第三章で詳述するが、日本では、昭和3年に「一匹の蜜蜂」と題されて柳田泉によって翻訳<sup>4</sup>されているものかなり多くの誤訳が見られる。あまつさえ、母親が息子と余小姐のひそかな恋心を知らず甥と余小姐との結婚を勧めようとしているという場面を、途中から自分の息子と余小姐との結婚を勧めるというような読み間違えをしているなど、話の骨子すら誤解しているようであった。

ところで、この日本語訳が発表された昭和3年（1928）は、話劇「一只馬蜂」が発表されてからわずか5年後である。1920年代の中国の文学は、1919年五四運動後の白話（口語）文学革命の只中にあり、「一只馬蜂」もその潮流の中で生み出されたものといっていようだろう。日本で、この文学革命の動きを敏感に捉えたのは青木正児であった。青木正児は1920年十一月『支那学』第一巻第三号において、運動の先蹤者魯迅を初めて紹介した。その後、魯迅の作品「故郷」の本邦初訳が、1927年十月に武者小路実篤が編集する『大調和』第一巻第七号において試みられる<sup>5</sup>。そして「一只馬蜂」が『世界戯曲全集』（第40巻）に訳載されたのである。『世界戯曲全集』には、各国ごとに代表的戯曲が収められているが、中国編には、「一只馬蜂」以外の口語による作品は採録されておらず、「寶娥冤」「老生児」「倩女離魂」「琵琶記」等の元曲や明曲の名だたる作品が宮原民平によって訳載されているに過ぎない。これらを勘案すると、当時における

---

2 曹禺（1910-1996）は劇作家。「中国のシェークスピア」と称される。代表作に処女作「雷雨」（1933）のほか、「日出」（1936）、「原野」（1937）、「北京人」（1941）などがある。

3 原著はフランスの劇作家ウジェーヌ・ラビシュ（Eugène Marin Labiche, 1816-1888）の*La Poudre aux yeux*（1861）。

4 柳田泉訳「一匹の蜜蜂」（世界戯曲全集刊行会編『世界戯曲全集』（第40巻）所収 昭和3年）柳田泉（1894-1969）は明治文学研究者であり、当時活躍した翻訳者でもあった。

5 藤井省三『魯迅事典』（三省堂 2002年）

「一只馬蜂」の翻訳は、訳文の出来不出来はさておき、中国話劇日訳の嚆矢として、また、新しい口語文学の紹介として、その歴史的意味は少なくないといえよう。

ただ、丁西林の作品が日本において公演された例は未だなく、1956年に俳優座において、平幹二郎、野中マリ、牧よし子などが「貸間探し—原題「圧迫」—」を試演したに留まる。

なお、本コースにおける上演は、「東アジア言語文化入門」の履修者84名と一般市民など併せて110名ほどの観客を得、月琴（大野圭介）・二胡（青木麻衣子）の演奏によるエンディングによって、2008年7月31日午後成功裏に幕を閉じた。

今回発表するような改編・翻訳・上演という一連の試みが、大学における中国語教育にとって「抛磚引玉」になれば幸いである。

## 2 丁西林について

「一只馬蜂」の作者、丁西林は、劇作も行ったが、本業は物理学者で、社会活動家としても知られる。原名を燮林、字を巽甫といい、1893年9月29日、江蘇省泰興県黄橋鎮に生まれた。1910年に上海南洋公学に入學し、1913年に卒業、翌年、英国に留学し、バーミンガム大学で物理学を専攻、1919年に修士学位を取得した。同年帰国後、北京大学の物理系に教授として招聘され、以後、繰り返し物理系主任を務めた。在任中は、校長の蔡元培に倣って、優秀な人材の招聘に努め、物理系の繁栄の礎を築いた。また、着任後は当時の系主任顔任光とともに、実験の重要性を訴え、物理実験室を建設したほか、初めて英語でなく中国語で講義を記すことを提唱して、物理学用語の中国語訳名を整備し、中国における欧米の科学知識の吸収に貢献するなど、人材育成にも力を注いだ。1927年、南京に中央研究院が成立し、蔡元培が院長になると、丁西林は上海の物理研究所所長に駆り出され、研究員も兼任しながら、日中開戦直前までには、設備の整った実験室と蔵書の豊かな図書館を備えた研究所を創り上げていた。そのみならず、所長在任中は、相次いで中央研究院代理総幹事、総幹事を務め、中央研究院全体の発展のためにも奔走した。中華人民共和国成立後は、文化部副部長、中国対外文化聯絡委員会副主任、中国人民対外友好協会副会長などの重職を歴任、第一～三届全国人民代表大会代表・中国人民政治協商會議第二、三届全国委員会委員にも選ばれ、政治家としても活躍した。1974年4月、北京にて病死した。

専門分野では、バーミンガム大学でリチャードソン教授の指導のもと、マクスウェル分布の検証を行い、その後、摩擦電気や電気ネットワーク行列式の性質に関する研究などに従事した。音響学方面では、中国の伝統楽器の笛の改造を進めたが、1946年以降は、地図四色問題<sup>6</sup>に関心を持ち、二十年余、その研究に心血を注いだ。

---

6 地図の隣り合うエリアを異なる色で塗り分けるためには、最低四色必要であるという問題。

また、漢字改革の研究にもはやくから興味を持って取り組んでおり、そのため、1959年、中国文字改革委員会副主任に任命され、『字化方案』の編纂に関わった。その主張による「筆形字法」は「計算機中文信息筆形編碼法」に取り入れられ、「五筆字型」記憶のための「木丁西」という句は彼の文字改革の方面での貢献を記念したものである。

劇作家としての丁西林の活動は1923年に始まる。孫慶升編の「丁西林著訳目録」により、時代を追って戯曲・小説作品および戯曲の翻訳を抜き出して並べてみると、以下のようになる。

- 1923 一只馬蜂（独幕劇）、顯尼志勞戲劇的一幕—買聖誕礼物（翻訳劇）<sup>7</sup>
- 1924 癖（小説）、親愛的丈夫（独幕劇）、叫花子（小説）
- 1925 酒後（独幕劇）、清明前一日（小説）、压迫（独幕劇）
- 1927 瞎了一只眼（独幕劇）、
- 1930 北京的空氣（独幕劇）
- 1939 等太太回来的時候（四幕喜劇）、三塊錢国幣（独幕劇）
- 1940 妙峰山（四幕喜劇）
- 1951 雷峰塔（三幕十六場古典歌舞劇）
- 1954 胡鳳蓮与田玉川（五幕十四場古典歌舞劇）
- 1955 羅森堡夫婦（翻訳劇）<sup>8</sup>
- 1959 牛郎織女（舞劇）、孟麗君（六幕話劇）
- 1960 老鼠過街（七幕十場舞劇）
- 1962 一個和風細雨的插曲（四幕話劇）十二磅錢的神情（翻訳劇）<sup>9</sup>、乾杯（独幕劇）、智取生辰綱（四幕十一場話劇）
- 1963 上了鎖的箱子（翻訳劇）<sup>10</sup>
- 1964 一代天驕—拿破侖（翻訳劇）<sup>11</sup>

---

7 原著はオーストリアの小説家、劇作家アルトゥル・シュニッツラー（Arthur Schnitzler,1862-1931）のAnatol（1893）第二景Weihnachtseinkäufe。

8 原著はイギリスの脚本家Eric PaiceとWilliam BlandのThe Rosenbergs（1953）。ローゼンバーグ事件とは1950年にアメリカで起こった、ユダヤ人のローゼンバーグ夫妻が、原爆製造の機密をソ連に売った容疑でFBIに逮捕されたスパイ事件。夫妻は無罪を主張し、世界的に助命運動が広がったが、1953年6月19日、処刑された。社会活動家としての一面を持つ丁西林も、この事件に興味を持ち、珍しく際的な戯曲を訳している。

9 原著はピーター・バンの作者として知られるスコットランド生まれのイギリスの劇作家、サー・ジェームス・マシュー・バリー（Sir James Matthew Barrie,1860-1937）のThe Twelve-Pound Look（1892）。

10 原著はイギリスの桂冠詩人、ジョン・エドワード・メイスフィールド（John Edward Masefield, 1878-1967）のThe Locked Chest（1916）。

11 原著はアイルランド出身のイギリスの劇作家、ジョージ・バーナード・ショー（George Bernard Shaw）のThe Man of Destiny（1895）。ナポレオンが登場する喜劇。

戯曲は17作である<sup>12</sup>。作品は最初の数年にやや集中してはいるが、生涯に亘って創作を放棄することはなかったことがわかる。また、1923年から1930年にかけて集中的に創作された6作品はいずれも独幕劇だが、1939年以降の11作品のうち、「三塊錢国幣」「乾杯」を除いた9作品は多幕劇である。小説の創作は1924、1925年に限られる。また、本業が多忙になるにつれ、オリジナルの創作よりも、古典を下敷きにしたものや翻訳物が目立つようになる。

丁西林的代表作といえるのは、おもに初期に創作された、ウィットに富んだ会話で構成された、皮肉なユーモアに満ちた作風の独幕劇で、英国の影響を思わせる。田漢<sup>13</sup>が伝統劇とは一線を画する新たな中国の悲劇の創始者と看做されるのに対し、丁西林を新たな喜劇の創始者と看做す人がある所以であろう。

演習で取り上げたのは、丁西林的代表作のうち、処女作の「一只馬蜂」である。

### 3 「一只馬蜂」について

「一只馬蜂」は、1923年に、総合雑誌『太平洋』第4巻第3号に発表されるや、1923年北京大学25周年記念行事、1924年国立自治学院一周年式典<sup>14</sup>、1925年北京女子師範大学新年同楽会<sup>15</sup>などで実際に上演された。その後1925年3月には『一只馬蜂及其他独幕劇』として現代評論社より出版された。そもそも、『太平洋』は、丁西林などの科学者を中心になって編纂した雑誌であり、勢い科学中心の雑誌になりがちであった。そこで、文学作品も収めようと作品を物色していたところ、留学先のイギリスにおける丁西林的芝居愛好ぶりを見た友人が丁西林に創作をもちかけて「一只馬蜂」を掲載することになったという。その経緯から見て、「一只馬蜂」は、いわば実験的試みであったと想像できるが、結果として中国話劇における一幕もの喜劇の代表的作品となった。ただ、処女作であるとはいえ、そこに記されたダイアローグはきわめて自然であり、構成の妙、登場人物の確かな個性などいづれから見てもその完成度はきわめて高い。

また、その内容は、自由結婚を望む若い世代（吉先生と余小姐）と設定された結婚をよしとする親世代（吉夫人）の葛藤が描かれると同時に、それら登場人物一人ひとりにも内面の葛藤が見て取れる。

---

12 そのうち、「一個和風細雨的挿曲」を除く16作は、翻訳戯曲5作とともに、『丁西林劇作全集』（中国戯劇出版社、1985年7月）にすべて収められている。

13 田漢（1898-1968）は話劇、戯曲、映画脚本作家、小説家、詩人、創造社の主要メンバーのうちの一人。中華人民共和國国歌「義勇軍進行曲」の作詞でも知られる。中国現代演劇の基礎を固めた。話劇の代表作に「獲虎之夜」、「名優之死」、「乱鐘」、「回春之曲」、「麗人行」、「閔漢卿」、「文成公主」などがある。

14 孫師毅「演《一只馬蜂》後」（1925年3月9日、10日、11日『晨報・副鐫』）

15 琴心「《一只馬蜂》在舞台上的成績並質西林先生」（1925年3月31日『京報副刊』）

例えば甥の仲人を買って出る吉夫人が、「ああ、私は腐敗しきったおばあさんだと言うことは分かっているわ。仲人なんて、今は一番嫌がられることよね」と言うように伝統的考えと新しい考えとの葛藤が告げられる。また、吉先生もストレートに告白できない自分の気持ちについて「社会は本当に不自然なものですよ。こういう話を口に出してまずいことがあるのだろうか。どうして今は話せないんだ！」と言いたいこと（新しい考え）を言えない（伝統的考え）というジレンマを告白する。このような世代間の葛藤と個人の内面における葛藤が層をなして、それも機知によって展開されているところにこの作品の味わいがある。

また、新しい女性たちを「白話詩」といい、旧式な女性たちを「八股文」と譬え、その特徴を対照的に観客に描き出すが、一方のみを盲目的に賞賛し他方を只管に貶めるということはない。「白話詩」は確かに「(新しい女性なら誰でも)書ける」が「品格がなく、風情もない」とするものの、そこにこそ「よさ」があるとする。かたや、「八股文」が理想とするのは、「良妻賢母」のような典型であり今の人が「馬鹿にしきって」いるものだが、「特別で、すばらしい」側面もあると評する。単純な二項対立に陥ることはなく、処々に作者の透徹した世相観が読み取れ、現代にも通ずるものを見ることが出来る。

それゆえ、丁西林は今なお、「中国現代話劇は悲劇を主としているが、彼は数少ない喜劇作家の一人である。喜劇分野においてウィットとユーモアある喜劇を創作した。中国現代話劇の代表的作品はほとんどが複数幕からなるが、彼は一幕物の芸術的試みに拘った。そして模範的といえる作品を創作した。彼は中国現代劇の“初期”に登場したが、その初めからすでに高い水準に達していた。劇の構想、人物、構成、ことば、作品性いずれも芸術的に成熟していて、同時期に作られた多くの、雑で幼稚な作品の中にあって、鳳毛麟角のように得がたいものといえる」<sup>16</sup>と評されるのである。

#### 4 丁西林作、夏嵐改編「一只馬蜂」

以下に、富山大学人文学部2008年前期中国言語文化演習履修生により2008年7月31日、富山大学において初演された「一只馬蜂」改編版およびその翻訳を載せる。改編のために使用した本は、『丁西林劇作全集』（中国戯劇出版社、1958年7月）所載のテキストである。下線部は改編箇所であるが、改編は、上演の都合上（観劇者に対する説明や役者交替など）、加える必要があった箇所に限られる。また、現在の正書法に則り、原文の文字を改めた箇所があるが、それについては一々注記することはしない。

---

16 錢理群、温儒敏、吳福輝『中国現代文学三十年（修訂本）』（北京大学出版社、1998）

「一只馬蜂」

一匹のスズメバチ

——嘘つきカップル万歳——

丁西林作，夏嵐改編

丁西林作，夏嵐改編

在中国，婚姻大事自古是“父母之命，媒妁之言”。但是，有一对青年男女，偏偏要自由恋爱——这不是一件容易的事。他们既要顾及到周围人的反应，两人之间时时又欲言又止，不敢点穿。这虽然是近八十多年前的事了，但今天看来，仍然妙趣横生，时不时让人发出会心的一笑。下面请看这出短剧。

中国では、婚姻は古くから父母の命、仲人の口（父母の命令、仲人の口利き）によると  
きまっております。しかし、ある若い男女が  
よりによって自由恋愛をしようと思いました。  
——が、これはたやすいことではありませ  
ん。二人は周囲の反応に配慮しなければなら  
ないと同時に、お互いの間でも言うに言えず、  
はっきりと口にできないということがしばし  
ばあります。これは八十年余り前の事になり  
ましたが、今日見ましてもやはり味わいに富  
むお話で、会心の笑みを浮かべてしまう場面  
が多々ございます。どうぞ、今から演じます  
お芝居をご覧ください。

人物表

吉老太太——年约五十余岁，身材细小，体质强健，淡素服装，非常的清洁。

吉先生——吉老太太的儿子，年约二十六七，强健活泼，极平常极自然的服装。

余小姐——年约二十五六，姿势美丽，面目富有表情，服装精致。

仆人

布景

一间小小长方形房子，后面墙壁中间，两扇宽门。门的左边置一衣架，靠墙一小桌，桌上

登場人物

吉夫人——年は50歳を出たところ，小柄で、体が丈夫。地味な服装をしていて、こざっぱりしている。

吉さん——吉夫人の息子，年は約26、7歳，頑丈で、活発である。極めて普通で自然な服装をしている。

余さん——年は25、6歳，スタイルがよく，表情が豊かで，服装のセンスがいい。

下男

背景

長方形の小さな一間。後ろの壁の真ん中に両開きのドアがある。ドアの左側の壁にハン

置鲜花。右边靠墙立一书柜，内藏成套的中西书籍。右壁的里边，开一独门，门前为短门大窗，窗边置写字桌，上置文具。房的左壁，后半亦开一门，前半靠壁置书架，架上置装饰品。壁上悬字画。房子中央略偏前与右，置一小圆桌，上置茶具，桌的右侧置大椅（即安乐椅），左侧置可坐两人的长椅，两椅之间置一小椅，椅上皆置腰枕。

〔开幕前吉老太太睡卧在大椅上，脚下置高垫，手中报纸落地上。〕

吉先生 （将左门徐徐推开，看吉老太太睡卧椅上。轻步走至衣架，取了一件薄大衣，走至椅前，轻轻盖在吉老太太身上。吉老太太醒觉。吉先生含笑问）  
睡着了没有？

吉老太太 我本想闭了眼歇一会儿，不想不留心，就睡着了。（坐起）

吉先生 老人家的眼睛，同小孩子的眼睛一样，闭不得。一闭了，就不由你做主。  
（将报纸拾起，坐在小椅上）

ガー，壁に接して小卓が置かれ，小卓の上には花が挿してある。右側には壁に接して本棚が据えられ，帙入りの中国書や洋書がぎっしり詰まっている。右側の壁にドアがあり，手前には腰窓が設えてあり，窓辺にはデスクが置かれ，文房具が載せられている。左壁にも奥に扉窓があり，手前には壁に接して書架が置かれ，装飾品が置かれている。壁には書画が掛かっている。部屋の中央からやや右よりに，小さな丸テーブルがあつて，上には茶器が置いてある。そのテーブルの右側には大きな椅子（安楽椅子），左側には二人がけの長椅子，二つの椅子の間に小さな腰掛が置かれ，椅子にはそれぞれクッションが備えてある。

〔幕が上がる前，吉夫人は大きな椅子に横になって眠っている，足の下には高いオットマン，手にした新聞が床に落ちる。〕

吉さん：（左の扉をゆっくり開け，吉夫人が椅子の上で眠っているのを見る。静かに衣装掛けに歩み寄り，薄いコートを取り，椅子の所まで行って，吉夫人にそっと掛ける。吉夫人が目覚ます。吉さんは微笑みながら尋ねる）眠っていましたか？

吉夫人：目を閉じてちょっと休むつもりだったのだけれど，ちょっと気を緩めたら，眠ってしまったわ。（起き上がる）

吉さん：お年寄りの目は子供と一緒に，閉じちゃ駄目ですよ。閉じてしまうと，もう自分ではどうにもなりません。  
（新聞を拾い上げて，小さな椅子に腰をおろす）

吉老太太 现在什么时候了？

吉先生 (由怀里取出一个表看了一眼) 三点一刻。

吉老太太 你在哪里一直到现在？

吉先生 在书房里写了两封信。

吉老太太 喔，不错，你替我把那封信写了吧。

吉先生 好，现在就写。(坐到写字桌，从抽屉里拿出信纸信封，瓶里倒了水，磨墨取笔，预备写字) 怎样写法？

吉老太太 随便地写几句好了。你把我们动身的日子告诉他们，叫他们雇一只船到港口接一接。

吉先生 你一面说，我一面写吧。一定下星期二动身么？

吉老太太 喔，已经不是日子，还再不动身！

吉先生 (一面写，一面念，一面说) “……十九日起程回南。”(停笔用手指计算日期) 十九，二十，二十一，(写) “二十一日到港。叫张宏同江妈雇一只船到港口接一接。”(问) 是不是？

吉老太太 是，最好叫到李老四家的船，干净。要是李老四船出了门，叫邓祥发家的也可以。

吉先生 (写) 最好叫到李老四家的船(一面写一面口中作低声地念) 邓祥发家的也可以。(问) 还有什么？

吉夫人：もう何時になったかしら？

吉さん：(懐から時計を出してちらっと見て) 三時十五分です。

吉夫人：今までずっとどこにいたの？

吉さん：書齋で手紙を二通書きました。

吉夫人：ああ，そうね，私の代わりにあの手紙を書いてしまって頂戴。

吉さん：ええ，今書きます。(デスクの前に座り，引き出しの中から便箋と封筒を取り出し，瓶に水を入れ，墨を磨って筆を取り，字を書く用意をする) どういう風に書きます？

吉夫人：適当に少し書けばいいわ。私たちの発つ日を伝えて，船を一艘雇って港まで迎えに来させて。

吉さん：おっしゃったように書きましょう。必ず来週の火曜に発つのですか？

吉夫人：ええ，もう日が過ぎたわ。もう発たないわけにはいかないわ。

吉さん：(書きながら読み，話す) ……十九日に発って南に戻る。(筆を止め指折り日を数える) 十九，二十，二十一，(書く) 二十一日港に着くので，張宏と江おばさんに船を雇って港まで迎えにこさせるように。(尋ねる) そうですね？

吉夫人：ええ，できれば李老四の所の船がいいわ，きれいだから。もし李老四が留守なら，鄧祥発の所のももいいわ。

吉さん：(書く) できれば李老四の船がいい(書きながら，小声でつぶやくように読む) ……鄧祥発の所のももいい。(尋ねる) まだ何かありますか？

吉老太太（自己想她的心思）这几天太阳已经很厉害，不如叫他们先把南房里的皮衣服拿出来晒一晒。

吉先生 好，还有什么？

吉老太太 没有什么。（自言自语）王妈回家，说过了节就回来，不知现在已经回来了没有？

（吉先生继续地写信

吉老太太 余小姐，应该送她点礼物才好。

吉先生（先写完了信，然后答话，再接着写信封）你不是说送她一件衣料的么？（写完了信封）好了，写完了。

吉老太太（被吉先生打破她的深思）写完了么？

吉先生（走至椅前，将这信送出）要不要看一看？

吉老太太 你念一念吧。

吉先生（念信）“二妹览‘已经不是日子，还再不动身’。母亲说。”

吉老太太 这是写的什么？

吉先生 这是写信的一个帽子。（继续一句一句地念信）“母亲定于十九日动身。二十一日到港。叫张宏同江妈雇一只船到港口接一接。最好叫到李老四

吉夫人：（考えを巡らしながら）ここのところもう日差しが強くなっているから、南の部屋の皮コートを出して干させたほうがいいかも。

吉さん：はい。ほかには？

吉夫人：もうないわ。（独り言を言う）王おばさんは実家に帰って、祝日が過ぎたら戻ってくるって言っていたけれど、もう戻ってきたかしら？

〔続けて手紙を書く

吉夫人：余さんよ、彼女に何か贈り物をしなくては。

吉さん：（先ず手紙を書き終えてから答え、それからまた封筒の宛名書きをする）彼女には服の生地を贈るって言ったじゃありませんか？（封筒を書き終える）はい、書き終わりましたよ。

吉夫人：（吉さんに考えを断ち切れ）書き終わったの？

吉さん：（椅子の前まで歩いていき、手紙を差し出し）一度お読みにになりますか？

吉夫人：あなたが読んでちょうだい。

吉さん：（手紙を読む）「妹へ。『もう日がないわ、もう発たないわけにはいかないわ。』と母が申します。」

吉夫人：何を書いているの？

吉さん：これは手紙の書き出しです。（続けて一文ずつ読む）「母は十九日に出発する予定です。二十一日に港に着きます。張宏と江おばさんに船を

家の船，干浄，要是李老四家的船出了门，叫邓祥发家的也可以。这几天太阳已经很厉害，不如叫他们先把南房里的皮衣，拿出来晒一晒。王妈回家，说过了节就回来，不知道现在已经回来了没有？”没有写错吧？

吉老太太（笑）喔，你们现在写信，都是这样写么？

吉先生 这是最时行的直写式的白话文，有一句，说一句。你没有旁的话要说么？

吉老太太 没有。

吉先生 这下边是我的事。（继续念信）“这次母亲在京，一切都好。唯有两件事，不大称心。”

吉老太太 我有什么事不称心？

吉先生 （不答，继续念信）“第一，她这次来京的目的，本想劝她的儿子，赶紧讨个媳妇，她可早点抱个孙儿。方头大耳，既肥且皙。哎！不想来京两月，绝少成绩。媳妇，毫无影响，孙子，渺无消息；第二，她满心满意，想亲上加亲，把姊妹改做亲家，侄儿

一艘雇って港まで迎えさせて下さい。できれば李老四の所の船がいいです、きれいですから。もし李老四が留守なら、鄧祥発の所のでもいいです。ここのところもう日差しが強くなっているから、南の部屋の皮コートを出して干させたほうがいいかもしれません。王お婆さんは実家に帰って、祝日が過ぎたら戻ってくるって言っていましたが、もう戻ってきたでしょうか。」書き間違いはありませんね？

吉夫人：（笑う）まあ、今の手紙は、みんなこういう風を書くの？

吉さん：これは一番流行の直叙的口語体で、話したように書きます。ほかに書いておかなければならないことはありませんか。

吉夫人：ないわ。

吉さん：ここからは僕のことです。（続けて手紙を読む）「この度の母の上京はすべて順調ですが、ただ二つのことだけが、あまり思うようにいきません。……」

吉夫人：何が私の思うようにいかないですって？

吉さん：（答えずに、続けて手紙を読む）「第一に、彼女の今回の上京の目的は、もともと、息子になるだけ早く嫁をとるようすすめるつもりでした。早く孫が抱けるように。福相でぽちゃぽちゃ丸く色白の孫。ああ、ところが北京に来て二ヶ月が経ちました

变做女婿。不想她那不肖之女，又刚愎自用，不顺母意。因此上，这几日来，口中不言，心中闷闷。不过那位表侄先生，现已广托亲友，多方物色。夫诚能动神，勤能移山，况在佳人才子聚会之首都，求一称心合意之老婆乎！故数月之内，定有良缘。将来一杯喜酒，或能稍慰老年人。愿天下有情人无情人成眷属之美情也。”说得对不对？不要生气啊。

吉老太太（稍有不快之意）我有这些闲工夫来同你们生气！你们的事，我老早就对你们讲过，由你们自己去，我一概不管。你们爱怎么说，就怎么说。

吉先生（将信封好，贴了邮票，走至椅旁，一手放椅背上，一手理她的头发）妈，

が、成果はまったくありませんでした。嫁の影もなければ、孫の形もありません。第二に、彼女は心の底から重縁を望んでいます。姉妹を姻戚に、甥を娘婿にしたいのです。けれども母の不肖の娘は頑固で独りよがり、母の言うことをききません。と言うわけで、ここ数日、口では何も言いませんが心中は悶々としているのです。ですが、例の甥どのは、今もうすでに親類や友人に頼んでまわり、手を尽くして物色しています。誠意は神をも動かし、熱意は山をも動かします。ましてや佳人才人が集まる首都北京で意にかなう妻を探そうというのですから。数ヶ月の内にはきっと良縁が見つかるでしょう。そのうち、婚礼の祝杯で、もしかしたら老人を少しはなぐさめてくれるかもしれません。願わくは天下の恋愛中の人もそうでない人もみんな結婚できるようにという美しい心情です。」ね、その通りでしょう？腹を立てないで下さいよ。

吉夫人：（少し不快そうな様子で）あなたたちに腹を立てるほど暇じゃないわ！あなたたちのことは、とっくに言っていたでしょう、自分たちの好きなようにやりなさい、私は一切口出ししないからって。言いたいようにおっしゃい。

吉さん：（手紙の封をして、切手を貼り、椅子の傍により、片方の手を椅子の背

你是一个特殊的女人，你什么事都是非常。你是一个非常的贤妻，一个非常的良母。惟有这一件，你没有逃出了做母亲的公例。

吉老太太 把这件大衣挂起来。

〔吉先生将衣挂原处。〕

吉老太太 （追想到她以前的生活）“贤妻良母”，配不上这四个字。

〔吉先生坐到原处。〕

吉老太太 你父亲死的时候，你只有八岁。云儿只有五岁。那个时候，我就不相信那私塾先生的教书方法。——也一半舍不得你们去受那野蛮的管束——所以我就拿定主意，自己教你们。一直把你教到十六岁。那时所有的产业，就是那分来的五十亩坏田。现在你们可以不愁穿，不愁吃。不是说大话；要是你们不是每年上千块钱的学费用，现在大约十倍那么多都不止了。

吉先生 所以我说你是一个特殊的女人。

の上に乘せて、もう片方の手で彼女の髪をなでながら）お母さん、あなたは特別な女性で、何もかもすべてとても素晴らしい。あなたは素晴らしい賢妻であり、素晴らしい良母です。ただこの件については、お母さんも世の母親たるものの通例から抜け出していない。

吉夫人：このコートをかけてちょうだい。

〔吉さんはコートをもとの場所にかける。〕

吉夫人：（吉夫人は昔の生活を思い出しながら）良妻賢母、私はこの四文字にはふさわしくないわ。

〔吉さんはもとの場所に座る。〕

吉夫人：あなたの父親が亡くなったとき、あなたはたったの八歳、雲はたったの五歳だった。あの頃、私は私塾の先生の教育法を信用していなかった——半分はあなたたちにあんな野蛮なしつけを受けに行かせるのにしのびなかったということもあるわ——だから私は決心して、自分で教育した。それからずっとあなたが十六になるまでね。あの頃の全財産は、分与された50畝のやせ地だけ。今あなたたちは着るものにも、食べるものにも困らないでいられる。大袈裟ではなくて、もしあなたたちに毎年1000元もの学費や雑費をかけていなかったら、今十倍ではすまないくらい財産があったわ。

吉さん：だからあなたは特別な女性だと言っ

吉老太太 是的，贤妻良母，有什么稀奇？现在的一般小姐们不是一天到晚所鄙薄不屑得做的么？

吉先生 你要原谅她们。她们因为有几千年没有说过话，现在可以拿起笔来，做文章，她们只要说，说，说，連她们自己都不知道说的些什么。

吉老太太 现在这班小姐们，真教人看不上眼。不懂得做人，不懂得治家。我不知道她们的好处在什么地方？

吉先生 她们都是些白话诗，既无品格，又无风韵。旁人莫名其妙，然而她们的好处，就在这个上边。

吉老太太 我问你，这样的人也不好，那样的人也不好，旧的，你说她们是八股文，新的，你又说她们是白话诗，……

吉先生 是的，同样的没有东西，没有味儿。

吉老太太 那么你到底要怎样的一个人，你就愿意？

吉先生 （耸肩）坏的就是连我自己都不知道。要是找老婆如同找数学的未知数一样，能够列出一个代数方程式来，

たんです。

吉夫人：そうよ，良妻賢母，ありがたくもないわ。今の若い女性たちが四六時中馬鹿にしきって，なろうともしないものじゃないの。

吉さん：彼女たちを許してやらないといけません。彼女たちは数千年しゃべらなかつたのに，今は筆をとって文を書けるものだから，ただしゃべってさえすれば良いんです。しゃべって，しゃべって，彼女たち自身ですら，何をしゃべってるかわかってないんですよ。

吉夫人：今のそういう若い娘さんたちは，本当に気に食わないわ。身の処し方もしらなければ，家の切り盛りもできない。彼女たちの良さがどこにあるのかわからないわ。

吉さん：彼女たちはみな白話詩です。品格がないうえに，風情もない。傍目にはわけがわかりませんが，彼女たちの良さは，まさにそこにあるのです。

吉夫人：あなたに聞くけど，こういう人はだめ，ああいう人もだめ，旧式な女性を八股文と言うかと思えば，今度は新しい女性を白話詩と言って……

吉さん：そうです，同じようにつまらなくって面白みがない。

吉夫人：ならあなたはいったいどんな人なら，いいの？

吉さん：（肩をすぼめる）困ったことに，私にも全くわからないのです。もし妻を探すのが，数学の未知数を求める

那倒容易办了。

吉老太太 怎么你们表兄弟两个，这样的不同！那一个就请这个，托那个，差不多今天等不到明天。你是总不把它当一件正经事看。

吉先生 不把它当一件正经事看！因为它把它看得太正经了，所以到今天还没有结婚。要是我把它当做配眼镜一样，那么你的孙子，已经进了中学。

吉老太太（觉得对他没有办法）倒一杯茶给我。

仆人 太太，有您电话！

吉老太太 哦，谁呀？（起身，走下。吉先生送至门口）  
〔吉先生上，倒了一杯茶，慢慢饮之。〕  
〔吉老太太上。〕

吉老太太 你知道不知道，你的表兄已经同我说了几次，要我替他做媒？这不，刚才的电话也是为这个。

吉先生 怎么不知道？

吉老太太 你知道他要说的是谁么？

吉先生 余小姐，是不是？你问过了她没有？

吉老太太（很慢地答）没有。

のと同じように、代数方程式を立てて求められるのなら、簡単なんですがね。

吉夫人：どうしてあなたたちいと同じ土、こんなにも違うのかしら！あちらはこっちに頼んだり、あっちに頼ったり、ほとんど一日も待てないという様子なのに。あなたはいつだってまじめに考えていないんだから。

吉さん：まじめに考えていないですって！私はきわめてまじめに考えているからこそ、今日まだ結婚していないのですよ。もし眼鏡を合わせるのと同じように考えていれば、あなたの孫は今頃もう中学に入ってますよ。

吉夫人：（彼には打つ手がないと思い）お茶をついで頂戴。

下男：奥様、お電話です。

吉夫人：そう、誰かしら？（身を起こし、下がる。吉さんは戸口まで送る）  
〔吉さん登場。お茶をついで、ゆっくり飲む。〕  
〔吉夫人登場。〕

知っている？あなたのいとは私にもう何度も仲人をしてくれとってきているのよ。ほら、今の電話もそのことですよ。

吉さん：知らないはずないでしょう。

吉夫人：彼が話してほしいとってきているのが誰だか知ってる？

吉さん：余さんでしょう？余さんには聞いてみましたか？

吉夫人：（ゆっくり答える）まだよ。

吉先生 为什么不问她？

吉老太太 为什么不问？（少顿）我想今天问她。——好不好？（语时视吉先生）

吉先生 很好，看护妇配医生，互助的原则，合作的精神，结婚时最好的演说资料。（吉老太太微微地叹了一口气。仆人推开左门。

仆人 老太太，余小姐来了。

吉老太太 请她进来。  
〔仆人走出，吉先生放下茶杯，忙走到写字桌，整理笔砚，折好了桌上报纸。〕

仆人 余小姐，您这边请。

〔仆人由外面推开左门让余小姐走进，自己随后收去了桌上的茶具。〕

余小姐 （带了帽子手套，一手提钱包，进来之后，一面与主人招呼，一面脱手套，将钱包置门旁小桌上，解下帽子）老太太，吉先生。

吉老太太/吉先生 余小姐。

〔吉先生接过帽子，挂衣架上。〕

余小姐 老太太，对不住得很，劳你们等了。

吉老太太 没有什么，请坐。（让余小姐坐大

吉さん：どうして聞いてみないんです？

吉夫人：どうして聞いてみないのかですって？（少し間をおいて）今日、聞いてみようと思っているの。——どうかしら？（話しながら吉さんを見る）

吉さん：いいですね，看護婦に医者。互助の原則，協力する精神，結婚式には最高のスピーチのネタですよ。  
〔吉夫人は軽くため息をつく。下男が左のドアを開く。〕

下男：奥様，余さんがお見えです。

吉夫人：お通しして。

〔下男は出ていき，吉さんはカップを置き，慌ててデスクまで行き，筆と硯を整え，机の上の新聞を折りたたむ。〕

下男：余さま，こちらへどうぞ。

〔下男は外側から左のドアを推して開け余さんを通し，自分は続いて入ってテーブルの上の茶器を片付ける。〕

余さん：（帽子をかぶり手袋をはめ，手には財布を持ち，部屋に入ると，主人にあいさつをしつつ，手袋をとり財布を小テーブルの上に置き，帽子をとる）奥様，吉さん。

吉夫人/吉さん：余さん。

〔吉さんは帽子を受け取り，衣装掛けに掛ける。〕

余さん：奥様，申し訳ございません。お待たせしてしまつて。

吉夫人：なんてことないわ，お座りになつて。

- 椅)
- 余小姐 喔，老太太坐，老太太不用客气，我这儿坐好。  
(扶吉老太太坐大椅，自坐小椅，吉先生自坐长椅上)
- 余小姐 两点半钟就想来，忽然来了一个病人，要替他腾出一间房间来，忙了半天。还打算打电话，说不能来了，后来我想老太太就要回南，无论怎样忙，都要来陪老太太玩半天。
- 吉老太太 多谢你，我们也知道你医院事情很忙，所以一向不常请你出来。今天是因为我们快要回南，想请你来，我们好当面向你道谢。这一次实在劳苦了你。起先是我们吉先生，住了两个星期，都是你招呼，后来又是我自己，我们实在感激你得了不得。
- 余小姐 老太太太客气，那是我们的职务。老太太这几天饮食可好一点？
- 吉老太太 胃口不强，我一向就是这样。那一
- (余さんに大きな椅子をすすめる)
- 余さん：まあ、奥様がお座りください、お気遣いなく、私はここで結構です。  
〔吉夫人を支えて大きな椅子に座らせ、自分は小さな椅子に座り、吉さんは長椅子に座る。〕
- 余さん：二時半に何おうと思っていたのですが、突然患者が一人来て、その人のために部屋を一室空けなければならなかったのです。それに時間がかかってしまって。電話で、伺えなくなつたとお伝えしようと思ったのですが、その後、奥様はもうすぐ南へお帰りだから、どんなに忙しくても、伺って奥様とご一緒させていただかなければと存じまして。
- 吉夫人：ありがとうございます、私たちもあなたが病院の仕事で忙しいのを知っているから、これまでは、しょっちゅうお呼び立てするようなことはしなかったの。今日は私たちがまもなく南に帰るものだから、来て頂こうと思ったの、直接あなたにお礼が言えるようにね。この度は本当にあなたにご面倒をおかけしたわ。まず息子の二週間の入院は、みんなあなたにお世話になって、それから今度は私自身が。私たちは本当にあなたに大変感謝しておりますの。
- 余さん：奥さまお気遣いなく、それは私たちの仕事ですから。奥さまはここ数日、食欲は少しでできましたか？
- 吉夫人：食欲はあまりないけど、私はずっと

次到北京来，因为在路上略微受了一点辛苦，所以觉得不大舒服，实在没有什么病。我们吉先生一定要我到医院去，说医院里怎样地舒服，怎样地干净，我总是想去。后来他又说我精神不好，一定是睡觉不好，非得到一个清静的地方去静养几天不可。我被他说不过了，方才住到医院去。我出来的时候，他还要我再多住几天。

吉先生 我的母亲是不相信医院，不相信看护妇的。

吉老太太 我并没有说我不相信看护妇，我是因为常常听见讲医院里招呼不大周到。

吉先生 没有什么，你现在不但相信她们，并且喜欢她们。

余小姐 我们也知道，外面有很多的人说我们的坏话，现在不是我来替自己辩护，有时实在不是看护妇的疏忽，实在是这一班生病的太太小姐们的麻烦。我时常同其余的同事说了玩，说这些人什么事不会做，连生病也不会生。…

そうなの。あのときは北京に来て、道中少し大変だったので、気分が悪くなっただけで、実際はどこも悪くないの。息子は私をどうしても病院に行かせようとして、病院の中がどんなに心地よく、どんなに清潔かを話してくれたのだけれど、私はやっぱり行きたくなくて。そのあと、また、私が元気がないのはきっとよく眠れないからだろうとかいって、どうしても静かな場所で何日か静養しなくてはだめだと言うの。私は言い負かされてそれで入院したんです。私が退院するときも、彼はまだ何日か入院させたがったのよ。

吉さん：私の母は病院を信用せず、看護婦も信用していないのです。

吉夫人：私は看護婦を信用していないなんて言っていないわ、私は病院では世話が行き届かないというのをよく聞いていたから。

吉さん：何でもないさ、母さんは今や看護婦を信用しているだけではなく、看護婦が好きなんだ。

余さん：わたしたちも、外でたくさんの人たちが、私達の悪口を言っていることを、知っています。私は自己弁護するわけではありませんが、ときには本当に看護婦がいい加減なためではなく、病気にかかった奥様方お嬢様方が面倒な事もあるのですよ。私はいつも他の同僚と冗談いってるんです。この人たちは何も出来ない、病

- 吉先生 要生病生得好，本来不是一件容易的事。
- 余小姐 她们第一，就不肯听医生的话。要这样要那样，一天要压几十次铃子。你对她们说，叫她们不要吃东西，她一会儿要到外边买些水果，一会儿想叫家里送点鸡汤。你想，要叫我们同平常人家的老妈子伺候太太小姐们一样，我们哪里有这么许多工夫？我们平均每人要招呼十个人。喔，说也是无用，她们哪里肯讲理？
- 吉先生 做看护妇本来是一种很苦的职业，因为世界上最不讲理的是醉汉，其次就要算病人。
- 余小姐 好笑得很，遇到一种奇怪的人，病快好的时候，他还要你陪他谈天。（看了吉先生一眼。）
- 吉先生 那真是可想而知的讨厌。要是个男人，还没有什么，假若是个女人，那恐怕简直没有办法。
- 気にかかることすらちゃんと出来ないのよって…。
- 吉さん：ちゃんと病気にかかるのは、本来簡単なことではありません。
- 余さん：彼女たちはまず、医者話を聞こうとしない。このようにしてほしい、あのようにしてほしいと、一日に何十回とナースコールを押す。彼女たちに何も食べてはいけないと言おうものなら、外へ果物を買に行こうとしたり、家から鶏スープを持ってこさせようと考えたりするのです。考えてみてください、私たちに普通の家の女中が奥様お嬢様方に仕えているのと同じようにしてもらおうたって、私たちにどうしてそんな時間があるでしょうか？私たちは平均して一人当たり十人の世話をしなくてはならないのですよ。ああ、言っても無駄です、彼女たちに道理が通じるはずないですものね？
- 吉さん：看護婦は本来辛い職業ですよ、なぜなら世界で最も道理をわきまえないのは酔っ払いで、その次が病人なのだから。
- 余さん：とてもおかしいんですが、奇妙な人がいましたわ。病気がもうよくなるうっていうのに、まだ世間話に付き合わせようとする男性なんです。〔吉さんをちらっと見る。〕
- 吉さん：そのわずらわしさは本当に想像に難くないね。男性ならまだいいけど、もし女性なら、それは恐らくどうし

吉老太太 不过我终是不相信，其余的人能够同你一样。纵然有这样的能干，也一定不会有这样的和善，这样的体贴。  
〔仆人由左门入，手里拿了一个盘，盘中置茶壶，茶杯，糖碟等物。〕

吉老太太 不，不用这个杯子。去把我刚买的景德镇的杯子拿来给余小姐。

仆人 是碗橱里那一个吗？

吉先生 不，那天老太太给我看过，我去拿来吧。（下）

吉老太太 （猛然想起）哟，看完后一直放在我房里了。还是我去吧。（下）  
〔吉老太太，吉先生由左门入〕  
〔吉老太太欲倒茶。〕

余小姐 老太太请坐，让我自己来倒。（倒一杯茶送吉老太太）

吉老太太 喔，谢谢你。  
〔吉先生倒一杯茶送余小姐。〕

余小姐 （受吉先生的茶）谢谢。（欲代吉先生倒茶）

吉先生 谢谢。我不喝茶。

余小姐 （一面喝茶）老太太为什么不在北京多住几天？有吉小姐在家，难道还不放心么？

ようもない。

吉夫人：でも私はどうしても他の人があなたと同じように出来るなんて考えられないわ。たとえあなたと同じように仕事がよくできて、あなたのように優しく、思いやりがあることはないでしょう。

〔下男は左のドアから入り、手にはお盆を持ち、お盆の上に急須、茶碗、飴の入った小皿などが載っている。〕

吉夫人：違うわ、その茶碗じゃないわ。私が買った景德镇の茶碗を余さんにお持ちして。

下男：食器棚のでしょうか？

吉さん：違うよ、この間奥様に見せてもらったんだ。僕が取ってくるよ。（退場）

吉夫人：（ふと思い出し）あ、見せた後、ずっと私の部屋に置きっぱなしだわ。  
やっぱり私が行くわ。（退場）

〔吉夫人、吉さん左ドアから登場。〕

〔吉夫人がお茶を注ごうとする〕

余さん：奥様お座りください、自分で致しますわ。（お茶を注いで夫人に渡す）

吉夫人：ああ、ありがとう。  
〔吉さんがお茶を注いで余さんに渡す。〕

余さん：（吉さんのお茶を受け取って）ありがとう。（吉さんにお茶を注ごうとする）

吉さん：ありがとう、お茶は飲みません。

余さん：（お茶を飲みながら）奥様はどうして北京にもう少し滞在なさらないのですか？吉お嬢さまが家にいらっ

- 吉老太太 她倒什么都能够，不过我这次已经离家很久。我本是因为吉先生生病了，所以来看看。
- 余小姐 我想吉小姐一定也是很能干。
- 吉老太太 什么叫能干。不过一个女孩子应该知道的事，我不容她们不知道。
- 余小姐 不过要想同老太太一样的能干，恐怕不容易。
- 吉先生 做能干父母的子女，是一件很苦的事。暑假那么热的天气，回到家，只有两个星期，两个星期一过，就一个赶到乡里去种田，一个赶到厨房里去烧饭。
- 吉老太太（笑）我是一个很顽固的人—我现在也有了年纪，也不怕人笑，—我以为一个人多知道一点事，一定不会有坏处。我不相信，一个女人会做了饭，就不会做文章。
- 吉先生 不错。不过困难的不是会做了饭的女人不会做文章，是会做了文章的女人就不会做饭。
- しゃるのに、それでもご心配なのですか？
- 吉夫人：あの娘は何でもよくできるの、でも私は今回はもう長く家を空けたわ。元はといえば息子が病気になったので、ちょっと見舞いに来ただけなのですよ。
- 余さん：吉お嬢様はきっと有能な方なのでしょうね。
- 吉夫人：有能なんてとんでもないけれど、一人前の娘がわきまえるべきことをわきまえないなんてことはさせていないわ。
- 余さん：ですが、奥様と同じように有能であろうとするのは、おそらく簡単なことではないでしょう。
- 吉さん：有能な親の子であることも、つらいものですよ。夏休みあんなに暑い天候でも、家に帰ってゆっくりできるのは二週間だけで、二週間が過ぎると、一方は田舎に農作業に、もう一方は炊事場に料理をしに追い出されるんだから。
- 吉夫人：（笑う）わたしはとても頑固な人間よ。—もう年だし、人に笑われても気にならないわ—人は何か余分にできたとしても決して困ることはないわ。一人の女性が料理ができるからといって、文章が書けないなんてことはないと思うわ。
- 吉さん：その通り。しかし、困るのは、料理のできる女性が文章を書けないのではなく、文章の書ける女性は料理

- 余小姐 吉小姐会到北京来么？我很想认识她，我想她一定是同老太太一样的和气，可爱。
- 吉先生 她旁的没有什么好处，不过还直爽。就是我嫌她有点新的习气。
- 余小姐 （高兴）我想我们一定会变做好朋友，她来的时候，老太太一定要教她写信给我。
- 吉老太太 （向吉先生）你有她的照片没有？
- 吉先生 有一张的，不知到哪里去了。
- 余小姐 （忆起）喔，吉先生信里说老太太要我一张照片，我今天带来了。（走向小桌）
- 吉老太太 （不解）我没有说要照片。（向吉先生）我几时……？
- 吉先生 你怎么没有讲？真是有了年纪的人，说过去的话不要几天就忘了。
- 余小姐 （装不听见，由钱包里取出一张小照片）这一张不大好，不十分像，等以后有了好的时候，再送老太太吧。（以照片送给吉老太太）
- 余さん：吉お嬢様は北京にいらっしゃいますか。お知り合いになりたいわ。きっと奥様と同じように穏やかで、すてきな方なのだと思いますわ。
- 吉さん：妹は他には何もいいところはないが、まあさっぱりしています。ただ、わたしは彼女が少し新しい風習にかぶれているのが気に入りませんね。
- 余さん：（喜んで）私たち、きっといいお友達になれると思います。奥様、お嬢様がいらっしゃる時には、必ず私にお手紙を書いてくださるようお伝え下さい。
- 吉夫人：（吉さんに）あの娘の写真持つてる？
- 吉さん：一枚あります。どこにいったかな。
- 余さん：（思い出して）ああ、吉さんのお手紙に、奥様が私の写真を一枚ほしいとおっしゃってると書いてありましたので、今日持ってまいりました。（小テーブルの方に行く）
- 吉夫人：（訝しげに）写真がほしいなんて言てませんよ。（吉さんに）私がいつ？
- ...
- 吉さん：言っていないなんてことあるもんですか。まったくお年寄りときたら、言ったことを何日もたたないうちに忘れてしまうんだから。
- 余さん：（聞こえないふりをして、財布から写真を一枚取り出す）これはあまり良くなかって、あまり私らしくありませんの。また良いのができたら、あらためて差し上げますわ。（写真

- 吉老太太（看照片）你已经长得很好看，这张照片更加好。
- 吉先生（向吉老太太取了照片，取笑吉老太太）你平常最讲究会说话的，怎么今天自己把话说差了？你应该说，这张照片固然很好看，但是总不及照片的主人好看。（与余小姐对看了一看）
- 吉老太太 我是说的老实话。
- 吉先生 你们还坐一会儿才去吧？（向吉老太太）我送你一个好看的照片框子。（带照片由左门走出）  
（两人不语者片刻，吉老太太对余小姐注视，余小姐不知所语，取了一块糖来吃。）
- 吉老太太 余小姐，我有几句话，很久就想同你谈谈。（将椅移近）  
（余小姐忙将口里糖吞下，理了一理裙子，坐直了身子，用心地听。）
- 吉老太太 我想你一定以为我是一个很爱舒服的人，你知道我年青的时候，很过了些辛苦的日子。我们吉先生，从小就没了父亲，家里大大小小的事情，都全靠我一个人去问，连他们的书，也都是我自己教他们。差不多吃了二十
- を老夫人に渡す)
- 吉夫人：(写真を見て) あなたはとてもお綺麗だけれど、この写真はさらに綺麗に写っているわ。
- 吉さん：(吉夫人から写真を受け取り、吉夫人をからかって) お母さんは普段口のきき方に一番うさいののに、どうして今日はご自分が口のきき方を間違うのですか。この写真はとても綺麗に写っているけれど、どうしたって写真の主にはかなわないとおっしゃるべきですよ。(余さんと少し顔を見合わせる)
- 吉夫人：本当のことをいっているのよ。
- 吉さん：あなた方はまだ出かけないのですか。  
(吉夫人に) 綺麗な写真立てを差し上げます。(写真を手に左のドアから出る)
- 〔二人はしばし沈黙。吉夫人は余さんをじっと見、余さんは何を言っていないかわからず、飴をとって食べる。〕
- 吉夫人：余さん、お話があるの、ずっと前から話したいと思っていたのよ。(椅子を近くに寄せる)
- 〔余さんは急いで飴を飲み込み、スカートを整え、体をしゃんと伸ばして、注意深く耳を傾ける。〕
- 吉夫人：あなたはきっと私が楽をしたがる人間だとお考えでしょうけれど、若いときはとても苦労したのよ。息子の吉は、幼くして父親を亡くしたので、家のことは何から何まで私一人の肩にかかってきて、子供たちの教

年の苦，才把他们带到这么大。现在他们什么事都用不着我去担心。不过还有一件，我放不了心，就是他们都还没有成家。  
〔余小姐的身子略微地颤动了一下。〕

吉老太太 这一层，我也同吉先生说过好几次，他都不把它当一件事。——我也不知道他到底是什么意思。现在子女的婚姻，本来也用不着父母去管，所以我也只好由他们自己去。（叹了一口气，略顿）我有一个表侄。  
〔余小姐转了一转身子，恢复了自然的呼吸。〕

吉老太太 你大概也认识他，他到医院看过我。他虽然只看见过你几次，但是因为他时常听见我说你怎样的好，所以他很敬重你。他向我说了好多次，托我说媒，我都没有提过。因为我自己儿子的事，我都不管。我哪里有工夫去管旁人家的事！不过他说，他一来不知道你的意思，所以不好向你开口，二来就是想对你说，也没有个好的机会。他，人是一个很好的人，他学的是医道，现在预备自己挂牌行医。他的脾气很好。也是一点坏的嗜好都没有。——喔，我知道我是一个很腐败的老太婆，说媒的事，是你们现在

育も全部私が自分でやったわ。二十年近く苦勞して，やっと子供たちをここまで育てたの。今はもう，あの子たちのことは何も心配する必要はない。だけど，一つだけ，安心できないのはあの子たちがどちらもまだ結婚していないことなの。

〔余さんの身体がかすかに震える。〕

吉夫人：このことは，息子にも何度も言ったんだけど，いつもまともに取り合わないの。あの子が一体どういうつもりなのかもわからない。今は，子供の結婚は，本来親が口出しすることでもないから，私も子供たち自身の好きにさせるしかないわ。（ため息をつき，やや間をおいて）私には甥がいるの。

〔余さんはちょっと身体の向きを変え，自然の呼吸のリズムを取り戻す。〕

吉夫人：あなたもたぶんご存知でしょう。病院に私を見舞いにきてくれて，あなたを何度か見かけているだけなんですけど，私があなただをほめるのをいつも聴いているものだから，あの子はとてもあなたを尊敬しているのよ。私に仲人を頼むと何度もいってきているの。でも私は言ったことはないけれど。だって，自分自身の息子のことでさえ，口出ししないのに。ひとの事に口出しする暇があるもんですか。だけど，甥は，あなたの気持ちがわからないから，あなたに言いにくいし，それに，たとえあなたに

最不欢喜的。要是这样，我请你不要生气。

余小姐 （如梦初觉）我很感谢老太太的好意，哪有生气的道理？

吉老太太 他还想在我回南之前，得一个回信。我想这也不是立刻就要怎样的一件事，你如要细细想一想，你回去写封信告诉我，我想也没有什么不可以。（略顿）你的意思怎么样？你有什么话，尽可对我说，你知道我差不多把你同自己的女儿一样的看待。

余小姐 （思索了一会儿，打定了主意）我想我们年青的人，一点经验没有，什么事都全靠年纪大一点的人到处指点教导。老太太的意思怎么样？

吉老太太 喔，这是你自己的事，总得你自己做主。

余小姐 老太太的意思，如果觉得很好，那

言おうとしても、いい機会がないというのよ。彼は人柄のいい子で、医学を勉強して、今は自分で開業する準備をしているの。気だてがとてもよくって、それに、悪い趣味も全くないってことよ。—ああ、私は自分が腐敗しきったおばあさんだということはわかっているわ。仲人なんて、今は一番嫌がられることよね。もしそうなら、怒らないで頂戴ね。

余さん：（はっと夢から覚めたように）奥様のご好意は大変ありがたく存じます。怒ったりするはずございませんわ。

吉夫人：甥はそのうえ、私が南に帰る前に返事が欲しいというのよ。私はこれはすぐ返事ができることでもないと思うのだけれど、よくよく考えてから、私に手紙で返事を頂戴、それでかまわないと思うわ。…（少し間を置く）あなたはどう思っているの？何かあるなら何でも私に言ってちょうだい。あなたを自分の娘のように思っているのよ。

余さん：（少し考え、考えを決める）私たち若い者は全く経験がないので、どんな事でも年長の方にいろいろご指導いただかなければいけませんわ。奥様はどうお考えなのですか？

吉夫人：そうね、これはあなた自身の事だから、やっぱりあなたが自分で決めないとだめよ。

余さん：奥様が良いとお考えでしたら、当然

- 自然不会有错。
- 吉老太太 那我就说你很愿意？
- 余小姐 不过我想总得写一封信回去，问问父母的意思。
- 吉老太太 不错，不错，自然应该这样。那你就写封信回去，等你接到家里回信之后，再说吧。
- 余小姐 我想单由我写信去，还不十分妥当。
- 吉老太太 那有什么不好？
- 余小姐 可以不可以请吉先生写一封详细的信，把老太太的意思告诉家里，我再另外写一封信，一齐寄去？
- 吉老太太 不错，不错，应该这样。回来我对吉先生说一说，叫他写起一封信来。写好了，我叫一个人送给你。你说好不好？
- 余小姐 老太太的主意很好。
- 吉老太太 我们还是坐一会儿，还是就到公园去？
- 余小姐 老太太意思怎么样？
- 吉老太太 我们就去好不好？我叫他们去请吉先生去。（走去压电铃）
- 余小姐 我借你们的电话用一用。
- 吉老太太 在那边院子里，我带你去。
- 〔吉老太太，余小姐由右门出，吉老太太由右门入，仆人由左门入。〕
- 吉老太太 你去请吉先生，就说我们现在到公
- 間違いなんてあるはずないですわ。
- 吉夫人：なら、あなたが乗り気だと言ってもいいのね？
- 余さん：でも私はやはり家に手紙を書いて、父と母の考えを聞いてみないといけないと思うのです。
- 吉夫人：その通りね、当然そうすべきね。なら、あなたが手紙を家に書いて、その返事を受け取ってからのことにしましょう。
- 余さん：ただ私から手紙を書くだけではまだ足りないと思うのです。
- 吉夫人：何か良くない事でもある？
- 余さん：吉さんに詳しい手紙を書いてもらって、奥様のお考えを家族に伝え、私は別に手紙を書いて、一緒に送るということはできないでしょうか？
- 吉夫人：その通りね、そうすべきね。戻ってきたら私があの子に言ってみましょう。あの子に手紙を書かせて、書いたら誰かにあなたのところに持っていかせるわ。それでいいかしら。
- 余さん：奥様のお考えは素晴らしいですわ。
- 吉夫人：もうちょっと座っていきましょうか？それとも公園に行く？
- 余さん：奥様はどうお考えですか？
- 吉夫人：出かけましょうか。吉を呼びに行かせるわ。（歩いて行ってベルを押す）
- 余さん：ちょっと電話をお借りします。
- 吉夫人：そこの中庭にあるわ、お連れしましよう。
- 〔吉夫人，余さんが右のドアから出て行く。吉夫人が右のドアから入り、

園去了。

仆人 是，我这就去请。

〔仆人由左门去，吉老太太坐回原处，如有所思。吉先生由左门入。〕

吉先生 （手里拿了照片，装好了框子。进来之后，将照片放在书架上，看了一眼，移动一回）余小姐哪儿去了？

吉老太太 （沉思中）打电话去了。

吉先生 （坐到小椅上，取了一块糖，慢慢去其外皮，随便地问）你的媒做得怎么样，问了她没有？

吉老太太 问过了。

吉先生 她怎么样讲？（将糖送至嘴边）

吉老太太 她很愿意。

吉先生 （将糖由嘴边拿回）她很愿意？她说很愿意吗？她怎样说？

吉老太太 她没有说什么。

吉先生 她没有说什么，你怎样知道她很愿意？

吉老太太 这用不着说的。

吉先生 喔，不错，这一类的事是用不着明

下男が左のドアから入って来る。

吉夫人：吉を呼びに行つて、私たちが公園へ行くと伝えて。

下男：はい、すぐにお呼びします。

〔下男は左のドアから出て行き、吉夫人はもとの場所に戻つて座り、何か考えている様子。吉さんが左のドアから入って来る。〕

吉さん：（手には写真を持っていて、写真立てに入っている。入つてきて、写真を本棚の上に置き、ちらつと見て一度動かす）余さんはどこへ行ったのですか？

吉夫人：（考え込みながら）電話をかけに行つたわ。

吉さん：（小さな椅子に座り、飴を手にする。ゆつくりと包みをはがし、さりげなくたずねる）お母さんの仲人はうまくいってますか？彼女に聞いてみましたか？

吉夫人：聞いてみたわ。

吉さん：彼女、どう言っていましたか？（飴を口元に持つていく）

吉夫人：彼女は乗り気だったわよ。

吉さん：（飴を口元から離し）彼女が乗り気だった？彼女がそう言ったのですか？彼女は何て言ったんです？

吉夫人：彼女は何も言わなかったわ。

吉さん：彼女が何も言わなかったのに、どうして彼女が乗り気だとわかるのですか？

吉夫人：そんなの言うまでもないわ。

吉さん：ああ、そうですね、この種のことは、

- 说的，是不是？同天气一样，只要看看气色就知道了。  
（吉老太太对他严厉地看了看。
- 吉先生 那么，已经定了？  
吉老太太 她还要写封信回去，问问她的父母，要等……  
吉先生 问问她的父母！（解悟）喔！（把一块糖投入口中）  
吉老太太 你笑什么？你笑她把她父母太看重了，是不是？我听了很欢喜。
- 吉先生 没有的事！我听了也很欢喜！  
（又拿一块糖放进嘴去）她说了什么时候写信没有？  
吉老太太 她要请你替她写。  
吉先生 要我替她写！奇怪奇怪。我又不是她的亲兄弟，亲叔伯，她为什么要请我替她写信，这不是奇而又奇的事？  
吉老太太 你看了奇怪么？我看了一点也不奇怪。  
吉先生 为什么不奇怪？  
吉老太太 因为——因为你还没有认出她。她是一个大户人家出来的女孩子，知道什么是应说的，什么是不应说的。她知道害羞。
- はっきりと言うまでもないことなのですね。そうでしょうか？天気と同じようにちょっと様子をうかがいさえすれば、わかってしまうのですね。  
〔吉夫人は吉さんを厳しい目で見る。  
吉さん：じゃあ、もう決まったのですか？  
吉夫人：彼女が家に手紙を書いて、ご両親に聞いてみないとというので、まだ…  
吉さん：ご両親に聞いてみる？（悟って）  
ああ！（飴を口の中に入れる）  
吉夫人：何を笑っているの？彼女が親を立てすぎているって笑っているのでしょうか？私はそれを聞いて嬉しいけれど。  
吉さん：そんなことはないですよ。それを聞いて私も嬉しいですよ。（また飴を持って口へ持っていく）彼女はいつ手紙を書くか言っていましたか？  
吉夫人：彼女は自分の代わりにあなたに手紙を書いてとほしいと言っていたわ。  
吉さん：私が彼女の代わりに書くのですか？  
変ですね。私は彼女の兄弟でもなければおじさんでもないのに、彼女は どうして私に代わりに手紙を書いてくれというのでしょうか。これは非常におかしなことではないですか？  
吉夫人：おかしいと思う？私はちっともおかしいと思わないけど。  
吉さん：なぜおかしくないのですか？  
吉夫人：なぜって、……それは、あなたはまだよく彼女のことがわかっていないからよ。彼女は良家の娘さんで、言うべきことと言うべきでないことの

- 區別ができるのよ。彼女は恥じらいを知っているのよ。
- 吉先生 喔喔！女孩子，害羞！（又拿了一块糖放进嘴去）
- 吉さん：ああ！娘さんの恥じらいね！（また飴を持って口に放り込む）
- 吉老太太 怎么你向来不吃糖的人，今天爱吃起糖来了？
- 吉夫人：どうしてこれまでずっと飴を食べなかったのに、今日はよく食べるようになったの？
- 吉先生 今天的糖特别有味儿！（高兴，跳起）你们现在就到公园去吗？
- 吉さん：今日の飴は特別に味わいがあるんですよ。（機嫌よく、（椅子から）飛び上がる）お二人は今から公園に行かれるのですか？
- 吉老太太 等余小姐打完了电话。
- 吉夫人：余さんが電話し終わったらね。
- 吉先生 （想了一想）你不换一件衣服？
- 吉さん：（少し考え）服を着替えなないのですか？
- 吉老太太 不过是到公园去坐一坐，谁再去换衣服？
- 吉夫人：公園へ行ってちょっと座るだけなのに、着替えるものですか？
- 吉先生 可是天气很凉，不换，也应该加一件。——在哪里？我替你去拿，好不好？
- 吉さん：でも、涼しいですよ。着替えなくても、もう一枚着なければ。どこですか？私が取ってきてあげましょう？
- 吉老太太 我自己去，你不知道。  
（吉先生开右门让吉老太太走出，将门关好，走到书架，取照片在手，细细地审看。将照片放回，在房里走了两转。余小姐由右门入。）
- 吉夫人：自分で行くわ。あなたにはわからないわ。  
〔吉さんは右のドアを開け、吉夫人を送り出し、ドアを閉め、本棚まで行って、写真を手に取り、じっくり見る。写真を元へ戻し、部屋の中を二回まわる。余さんが右のドアから入る。〕
- 吉先生 电话打通没有？
- 吉さん：電話は通じましたか？
- 余小姐 打通了。（注意吉老太太不在房内，两人对看了一看）
- 余さん：通じました。（吉夫人が部屋の中にいないことに気付いて、二人は互いに顔を見合わせる。）
- 吉先生 （将长椅向前稍推）老太太到后面
- 吉さん：（長椅子を少し前に押し出し）母は

去换一换衣服，叫请你在这里等一会儿。请坐。

〔余小姐由女人的直觉，知将有有趣的谈判发生，为准备抵御起见，先摸了一摸头发，理了一理裙子，选了长椅离小椅远的一边坐了。吉先生坐小椅上。

余小姐 老太太真是一个很可佩服的人，那么大年纪，穿的衣服，比年青的小姐们还要讲究，

吉先生 一个人什么都可以不讲究，惟有衣服可以不讲究。

余小姐 为什么？

吉先生 因为人是一个社会动物。一个人在世界上，所有的一切物质上的幸福，精神上的愉快，都是社会给他的。所以一个人对于社会，应当尽量的报答。

余小姐 那与著衣服有关系么？

吉先生 关系大得很！因为报答社会，有种种不同的方法。有职业的，借他的职业，有技能的，用他的技能。当兵的可以替我们杀人，做律师的可以替我们打官司，做医生的可以替我们治病。不过还有一种人，——就像我们——既无职业，又无技能，最少也应该著几件好看的衣服，才不至

奥に服を着替えに行きましたよ。ここで少しお待ち下さいとのことですよ。どうぞお座りください。

〔余さんは女の直感から、興味深い話し合いがはじまりそうだと予感し、それを食い止めようとして、まず髪の毛をちょっと撫で、スカートをちょっと整え、長椅子の、小さな椅子から離れた側を選んで座る。吉さんは小さな椅子に座る。

余さん：奥様には本当に頭が下がります。あんなにお年を召しても、お召しものは若いお嬢さん方よりおしゃれですわ。

吉さん：人は何に凝らなくても、ただ服だけには凝らなければなりません。

余さん：どうして？

吉さん：人は社会的動物だからです。人はこの世に生まれ、あらゆる物質的な幸福、精神的な快樂を、全て社会から与えられるのです。だから、人は社会に対して出来る限り報いるべきです。

余さん：それが服装と何の関係がありますの？

吉さん：大いに関係あります。なぜなら、社会に報いるには、様々な異なる方法があります。職業がある人はその職業により、技能がある人はその技能を用いる。兵隊は私達の為に人を殺すことができ、弁護士は私達の為に訴訟することができ、医者も私達の為に病気を治すことができる。でも、

走到人家面前，叫人家看了难过。

余小姐 （笑）哈，我明白了。愈无用的人，愈应该著几件好看的衣服。对不对？

吉先生 对，不过有用的人，也不应该著不好看的衣服。社会上没有一种职业，我们可以承认他有不顾装束的专利。一个人，自生至死，也没有一个时期，我们可以承认他有无须修饰的特权。假若一个女人，因为她已经结了婚，就不管她头发的高低，因为她生了儿子，就不管她袖子的长短；或是一个男人，因为他能够吟得几句诗词歌赋，就不洗清他的面孔，因为他能够画得几笔山水草虫，就不剃光他的下巴，拉直了他的袜筒，那都是社会的罪人。

余小姐 这样讲，恐怕我们都是社会的罪人。

吉先生 你？喔！（欲言而止）

余小姐 我怎么样？

吉先生 你？两个月以前，你冤枉说我发烧的时候，我不是已经对你讲过么？

それ以外の——僕らの様に——職業がない上に技能もない者は、少なくとも体裁の良い服装をしないと、人前に出て、見た人につらい思いをさせてしまうじゃありませんか。

余さん：（笑って）おほほ、分かりました。人の役に立たなければ立たないほど、いい服装をしなければいけないということね。そうでしょう？

吉さん：その通り、でも役に立つ人もみっともない服装をすべきではありません。社会に、身なりを構わない特権を持つと認められるような職業は一つとしてないし、人が生まれてから死ぬまで、着飾らなくても良い特権を持つと認められるような時期は一時もないんです。もしも、女性が結婚したからといって髪の高さに構わず、子供を生んだからといって袖の長さに構わなかったり、男性がちよっと詩のまね事ができるからといって顔をちゃんと洗わず、ちよっと絵を描く事ができるからといって髭を剃らず靴下をまっすぐに上げなかったりしたら、それは皆、社会の罪人ですよ。

余さん：そんなこと言ったら、多分私たちは皆社会の罪人ね。

吉さん：あなたが？ああ！（言いかけて止める）

余さん：私がどうだっていうの？

吉さん：あなたが？二ヶ月前、私が熱を出したとあなたが嘘をついた時、もうあ

余小姐 我冤枉说你发烧？

吉先生 自然是冤枉。什么温度三十九，脉跳一百多，那都是你造的谣言。——是的，完全是谣言。——不过我很感谢你，假使没有你的谣言，我如何能够住到两个星期？喔！那两个星期！那是我一生最快乐的两个星期！（叹）噯，无论怎样，不会再有的。

余小姐 （回想那时的景况）是的，也不知说了多少话！从来也没有看见过这样爱说话的病人。

吉先生 是的，那都是些极真诚，极平常，极正当的话。为什么平常我们不能讲？为什么要男人装了病，方才可以讲？为什么女人听了，一定要冤枉说他发烧？要是现在我说你眼睛生得怎样的动人，嘴唇怎样的可爱，你会装做没有听见，把我的额角摸一摸，枕头拥一拥，说一声：“现在歇一会儿吧。你说话说得太多！”社会真是一个不自然的东西！这一类的话，有什么说不得？为什么现在不能说？

あなたに言ったじゃありませんか。

余さん：あなたが熱を出したと私が嘘をついたですって？

吉さん：もちろん嘘ですとも。39度の熱だとか、100以上の脈だとか、あれは皆あなたがでっち上げた嘘だった。そう、全くの嘘。・・・でも、私はあなたに感謝しましたよ、もしあなたの嘘が無かったら、私はどうして二週間入院することが出来たでしょう？ああ！あの二週間！あれは私の一生で最も楽しい二週間だった！（溜息をついて）ああ、どうしたってもう二度とはあり得ない。

余さん：(その時の状況を思い返して)そうね、どれだけの話をしたかしら。いままでそんなに話し好きの患者さんは見たことがないわ。

吉さん：そう、あれは全て極めて誠実で、極めて普通で、極めてまともな話でした。どうして普段私達は話すことが出来ないのでしょうか？どうして男は病気を装って、やっと話すことが出来るのでしょうか？どうして女は聞いたら、必ず男が熱を出していると嘘をつかなければならないのでしょうか？もし今私があなたの目がどんなに生き生きとしてチャーミングで、あなたの唇がどんなに愛らしいか言ったとしても、あなたは聞いていないふりをし、私のこめかみにちょっと触れて、枕をちょっと直して「少し休みましょう。あなたは喋

- 余小姐　　因为——因为你现在不发烧！
- 吉先生　　你怎么知道我不发烧？我一年到头，没有一天不发烧。你要不相信，你现在替我试一试。（伸手放在长椅边上）  
（余小姐从长椅那一边，移到这一边，先理了一理裙子，然后用右手把脉，同时看左手上的腕表。约数秒钟无语。）  
余小姐，我病的时候说了很多的话，是不是？  
（余小姐点头）
- 吉先生　　说了些什么？
- 余小姐　　（将手缩回）你说中国是一个可怜的社会，男人尤其可怜。除了赌钱，遇不到人家的小姐，太太，除了生病，得不到女人的一点情意；所以你一个星期要打一次牌，一个月要装一次病。
- 吉先生　　对呀！这像生病人讲的话么？——发烧不发烧？
- 余小姐　　（犹豫）七十七次。
- り過ぎですよ。」とおっしゃるでしょう！社会は本当に不自然なものですよ！こういう話を、口に出してまずいことがあるでしょうか。どうして今は話せないんでしょう？
- 余さん：だって…あなたは今熱がないから。
- 吉さん：どうして私が熱を出してないとわかるんです？私は一年中、熱を出していない日はありません。君が信じられないのなら、ちょっと診てごらんなさい。  
〔余さんは長椅子の一方の端から一方の端まで移動し、先ずスカートを整えて、それから右手で脈をとり、同時に左手の腕時計を見る。約数秒間無言。〕  
余さん、私が病気の時、いろいろ話をしたでしょう？  
〔余さんは頷く〕
- 吉さん：何を話しましたっけ？
- 余さん：（手を引っ込めて）あなたは、中国が哀れな社会で、男はとりわけ哀れだとおっしゃったわ。賭け事をしないと、人様のお嬢さんや奥様に逢えず、病気にならないと、女性に少しもやさしくしてもらえない。だからあなたは一週間に一回マージャンをしなくちゃいけないし、一ヶ月に一度病気を装わなければならない。
- 吉さん：そうなんです！それが病人の話すような話ですか？——熱はありましたか？
- 余さん：（ためらいつつ）77。

- 吉先生 可見得是说谎。
- 余小姐 为什么？
- 吉先生 因为你就没有数！
- 余小姐 喔！一个人可以随便说谎么？
- 吉先生 自然不能“随便”。不过我们处在这个不自然的社会里面，不应该问的话，人家要问，可以讲的话，我们不能讲，所以只有说谎的一个方法，可以把许多丑事遮盖起来。
- 余小姐 我们从小就知道，说谎是不道德的。
- 吉先生 道德是没有标准的，随时代随个人而变的東西，平常所谓道德，不是多数人对于少数人的迷信，就是这班人对于那班人的偏见。
- 余小姐 这样说，世界上没有善恶好坏的标准了？
- 吉先生 世界上只有脏的习惯是坏习惯，丑的行为是恶行为。
- 余小姐 所以什么谎都可以说，只要说得好听。做贼，赌钱，都可以做，只要做得好看。
- 吉先生 一点都不错。不过世界上美神经发达的人很少。做贼同赌钱的时候，大半都是不十分雅观。说谎，说得好的
- 吉さん：嘘をついているのが見え見えですよ。
- 余さん：どうして？
- 吉さん：君は数えていなかったからですよ！
- 余さん：まあ！人間は軽々しく嘘をついていものかしら？
- 吉さん：もちろん軽々しくつてはいけません。でも我々はこの不自然な社会に身を置いて、人は尋ねるべきでないことを尋ねようとするし、僕らは話せるはずの話が話せない。だから、ただ嘘をつくという方法だけが、多くの不都合を覆い隠すことが出来るのですよ。
- 余さん：私たちは幼い時から嘘をつくことは不道德だと知っていますわ。
- 吉さん：道德には基準が無く、時代や人によって変化するもので、普通のいわゆる道德というものは、多数派の少数派に対する迷信でなければ、こちら側の人間のあちら側の人間に対する偏見です。
- 余さん：世の中には善悪や良し悪しの規準はないってということですか？
- 吉さん：世の中は、ただ汚い習慣が悪い習慣で、醜い行為が悪い行為というだけです。
- 余さん：だから耳触りさえ良ければ、どんな嘘でもついていいし、格好さえ良ければ、盗みや賭け事もやってかまわないんですか？
- 吉さん：全くその通りです。でも、世の中には美意識が発達している人は少ない。盗みや賭け事をする時、大半は

- 人很多，不过我最佩服的是你。
- 余小姐 我向来不说谎，你说我说谎，你有什么证据？
- 吉先生 对呀！所以佩服你的缘故，就是因为拿不出证据来。不过一个人说谎说得太多了，总有一天，转不过弯，要露出马脚来。
- 余小姐 我从来不喜欢说谎。
- 吉先生 好吧，白说是没有用的。我问你一件事。
- 余小姐 什么事？
- 吉先生 老太太替你作媒没有？
- 余小姐 （着急）你不应该问这句话。
- 吉先生 为什么不应该？
- 余小姐 因为这一类的话，连自己的父兄都不应该问，朋友更加不应该。
- 吉先生 喔！新文化！新文化！不过你知道不知道？一个人的婚事，从前，是父母专制，现在因为用不着父母去管，所以用不着父母去问。（吉先生的意见，以为婚姻的事如果不要人帮忙则已，如要帮忙，父母应该是最重
- みなあまりスマートじゃない。嘘をつくことが上手な人は多い。でも、私が最も敬服するのはあなたですよ。
- 余さん：私は今まで嘘をついたことはないわ、私が嘘をついたっておっしゃいますが、どんな証拠がありますの？
- 吉さん：そう！あなたに敬服するのは、証拠を出すことができないからなのです。だけど人はあまりに嘘をつきすぎると、いつか身動きが取れなくなり、馬脚を露してしまうことになるのです。
- 余さん：私は昔から嘘をつくのが嫌いなんです。
- 吉さん：もういいです、ただ言うだけじゃだめですよ。あなたにひとつお聞きしたいのですが。
- 余さん：何です？
- 吉さん：母があなたに結婚話を持ちかけたでしょう？
- 余さん：（焦って）あなたはそんなこと聞くべきじゃありませんわ。
- 吉さん：なぜですか？
- 余さん：だってそのような話は、親だって聞くべきじゃありません。友達ならなおさらですわ。
- 吉さん：ああ、新文化、新文化だ！だけど、ご存知ですか？個人の婚姻は、昔は両親の独断でしたが、今じゃ両親が手を出す必要がないから、両親が口を出すには及ばないのです。（吉さんの考えでは、婚姻に関すること

要の人物，现在所以不要他们过问，一则因为他们专制，二则也因为他们不能帮忙，这一层似乎没有人见到，所以附带声明）但是现在的婚姻是朋友专制，要想结婚，非靠朋友帮忙不可。所以说朋友不应该过问，是完全错误。

は人の助けがいらぬのならともかく、もし助けがあるなら両親が最も重要な人物である。現在父母に口出しさせないのは、一つには彼らが独断専行するから、また一つには彼らが手助けできないからである。この点に気付いている人がまだいないようなので、ついでに一言表明しておく）しかし今の結婚っていうのは友達の独断で、もし結婚しようと思えば、どうしても友達の手助けなしでは無理です。だから、友達は口出しすべきじゃないっていうのは完全に間違いです。

余小姐　我去看看老太太去。（起立欲走）

余さん：私、ちょっと奥様のようすを見てきますわ。（立ち上がって行こうとする）

吉先生　（起立阻之）不要走，不要走，我还有一件要紧的事，没有对你说。请坐。

吉さん：（立ち上がってそれを阻止しようとする）行かないで，行かないで。まだ大切な事があるんです，まだ話していない事が。さあ座って。

（两人复坐）

〔二人はまた座る〕

吉先生　我不在这里的时候，老太太同你讲了很多的话，是不是？

吉さん：私がここにいない間，母はあなたにいろいろ話をしたでしょう，違いますか？

余小姐　是的。

余さん：ええ，そうです。

吉先生　她说到我不想结婚的话没有？

吉さん：彼女は私が結婚したがらないという話をしましたか？

余小姐　说了很多。

余さん：ええ，とても詳しく。

吉先生　你知道，我不想结婚。

吉さん：そう，私は結婚したくないんです。

余小姐　为什么不想结婚？

余さん：なぜ結婚したくないんですの？

吉先生　因为一个人最宝贵的是美神经。一个人一结了婚，他的美神经就迟钝

吉さん：人にとって最も価値があるのは美意識だからです。結婚するやいなや，

了。その美意識は鈍くなってしまうので  
す。

余小姐 这样说，还是不结婚的好？ 余さん：だとすれば、やっぱり結婚しないほう  
がいいってことですか？

吉先生 是的，你可以不可以陪我？ 吉さん：ええ，あなたは私にお付き合いいた  
さいますか？

余小姐 陪你做什么？ 余さん：何をお付き合いするんですの？

吉先生 陪我不结婚？（走至余小姐前，伸  
出两手）陪我不要结婚！ 吉さん：私に付き合っ  
て結婚しないでいてく  
れますか？（余さんの前に行って両  
手を伸ばす）私に付き合っ  
て結婚し  
ないでください！

余小姐 （为他两目的诚意与爱所动）可以。  
（以手与之） 余さん：（彼の両の目の誠意と愛に動かされ）  
いいわ。（手をあずける）

吉先生 给我一个证据。 吉さん：私に証拠をください。

余小姐 你要什么证据？ 余さん：どんな証拠が要るんですか？

吉先生 你让我抱一抱！（释其手，作欲抱  
状） 吉さん：君を抱きしめさせてください。（そ  
の手を放し，抱きしめようとする）

余小姐 （走开）等你再生病的时候。 余さん：（離れて）また病気になったらね。

吉先生 不过我的母亲告诉我，说你已经答  
应了做她的侄媳妇，那怎么办？ 吉さん：でも母に聞いたけど，君はもういと  
この嫁になることを承知したんで  
しょう，それはどうするんです？

余小姐 （得意）那没有什么，我的父母不愿  
意我嫁给医生。 余さん：（得意気に）それは大丈夫。私の両  
親は私が医者に嫁ぐことを望んでい  
ませんもの。

吉先生 对，我知道，我们是天生的说谎一  
对！（趁其不防，双手抱之） 吉さん：そうだ，僕たちは完璧な嘘つきカッ  
プルなんだ。（彼女の隙に乗じて，  
両手で抱きしめる）

余小姐 （失声大喊）喔！  
（吉老太太由右门，仆人由左门，同  
时惊慌入。吉先生已释手。） 余さん：（思わず大きな声で叫ぶ）きゃあ！  
〔吉夫人が右のドアから，下男が  
左のドアから，同時に慌てふためい  
て入ってくる。吉さんはすでに手を  
放している。〕

吉老太太 什么事，什么事？ 吉夫人：どうしたの？どうしたの？

〔余小姐以一手掩面，面红不知所言。〕

〔余さんは片手で顔を覆い、赤くなつて何も言えない。〕

吉先生 （走至余小姐前，将余小姐手取下，视其面）什么地方？刺了你没有？

吉さん：（余さんの前に行き、その手を取り、その顔を見る）どこ？刺された？

吉老太太 什么事？怎么一回事？

吉夫人：どうしたの？何が起きたの？

余小姐 （呼了一口深气）喔，一只马蜂！

余さん：（深く息を吐き出す）ああ，スズメバチが！

（以目谢吉先生。）

〔吉さんに目で謝する。〕

——闭幕

——幕が下りる